2021/1/20
（うとＱ世話し 「運」論考）修正版
今日は、自分には殆どない「運」について少し考えてみました。
「運（強運）も実力の内」
の「強運」とは「好運を引き寄せる力」と言うより、悪い運（困難、危機）が来ても難を逃れ、生き延びる事が出来る、そうしてその後訪れる好機の到来を見逃さない事ではないかなと思いました。
つまり
「運と言うものは偶（たま）にしかやってこない。しかも来るのに随分と時間が掛る。なので、いつ来るか分らず且つ来るのがずっと先になる事のある運をまてるだけの気力、アイデア、資金源確保の信用を保てる者だけが不確定要素だらけの運に巡り会うタイミング迄生き延びていられる力。そうしてその後、一見何でもない出来事のように見える物の中に好機を見いだす見識眼。それを実力と称している」
と「一見非科学的な言説に科学的根拠を与えそうな」推論が成り立ちました。
その要素として三つあげたものの中で、取分け大切なのは第一番目にあげた「気力」の様な気がします。
というのも「気力」がなければ、アイデアも資金源確保の信用維持も出来ないからです。
それこそ「アイデアを出す気力」「資金源確保の信用を維持し続ける気力」という位、全てのスタートは気力になっています。
その気力を維持させるのに有効と思われる方法は、
「いつ来るか分らない運という不確定要素の到来」即ち「運の到来」を「ずっと先においておく」ことです。
間違っても、明日あさってレベルや起業２年目などに置かない方がいいようです。
分りづらければ「運」という言葉を「成功」という言葉に置き換えてみると理解し易いかもしれません。
そこで、それに多少アレンジを加えて言い直してみますと
「自らの事業の成功を起業２年目には既に手中にしている」と無意識にも思い描いている人は、例えば今コロナ渦の様な事態が突発的に起こると「内心の予定が大幅に狂った事」に動顛し「とても後１年ではその内々の目的を達せられっこない」と早々に諦めてしまうのに対し、
「成功」を「かなり、先の事になるだろうな」とぼんやりとも想像している人は、そのスパンの長さの中で、今コロナ渦を初め、他にも起り得る落ち込みの変動幅が、脳内イメージとして自然と平準化（衝撃緩和）がなされ
「長いうちにはいろんな事があって当然だわ。まっ、之は序の口、気長に行きまっか」
になる可能性があるという事かなと。
２年間の上下幅だと、結構暴れているように見える波形も、今後１０年と、上下に波打つ禍

福はあざなえる縄の如き組紐を長手方向に伸ばして考えてみると、その変動の波は穏やかに見え、重圧が軽減される心理的効果があるのではないか？
そうして、そうやって長いスパンで遠くから俯瞰する事によって、好機を見いだす違った角度からの視点を持ち、それが見識眼に変化する可能性があるのでは？と思った次第。
今日も又当たるも八卦当たらぬも八卦の論でございます。